

## 2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	高流動コンクリート研究小委員会	主 査 名：鹿毛 忠継 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会 (鉄筋コンクリート工事運営委員会)	委員長名：橋高 義典 主 査 名：野口 貴文
設 置 期 間	2016 年 4 月 ～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>高流動コンクリートの材料・調合・製造・施工指針(1997)の改定のために必要な最新の調査・研究に関する情報収集と JASS 5 や関連指針ならびにその他の技術基準類との調整を行い、指針改定を行う。</p> <p>初年度：</p> <p>(1) 高流動コンクリート等に関する最新の調査・研究に関する情報収集</p> <p>(2) フレッシュ性状に関する国内・海外の評価試験方法と基規準の調査</p> <p>(3) JASS 5、関連指針、その他技術基準類との調整を行う等、作業内容と改定の基本方針の検討</p> <p>(4) 2016 年度建築学会大会(九州)において、会員から広く意見を徴集するために、研究協議会(高流動コンクリートの活用に関する課題と展望—高流動指針の改定に向けて—)の実施</p> <p>2 年度：上記(1)、(2)、(3)の継続</p> <p>3 年度：指針作成(本文・解説の検討)</p> <p>4 年度：指針完成(指針の刊行と講習会は、次年度を予定)</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：鹿毛忠継(建研)</p> <p>幹事：小泉信一(BASF ジャパン)</p> <p>委員：榊田佳寛(建築研究振興協会)、橋高義典(首都大)、古川雄太(東急建設)、鈴木澄江(建七)、寺西浩司(名城大)、平野修也(フローリック)、野口貴文(東大)、依田和久(鹿島)、陣内浩(東京工芸大)、小島正朗(竹中)、中島忠大(清水)、神代泰道(大林)、宮野和樹(前田建設)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>2018 年度より、以下の 2WG を設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フレッシュコンクリート評価法 WG (高流動コンクリートの要求性能を、施工条件を踏まえて明確化し、定量的な性能評価法の検討する)</li> <li>・適用範囲拡大 WG (いわゆる中流動コンクリート(SF50cm 以下)の材料・調合および性能に関する技術資料を収集・整備する)</li> </ul>	
2019 年度予算	300,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有</p> <p>委員会 HP アドレス： <a href="https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/a-000/a200-12/a260-13.html">https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/a-000/a200-12/a260-13.html</a></p>

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	9 回(年度内計画を含む)
刊行物(シンポジウム資料等は除く)	2020 年度末までに刊行および講習会を開催予定
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 改定指針の本文・解説作成を 2WG と合同で活動行った。</p> <p>2. 改定作業に必要なデータ取得のための実験を実施した(12 月)。</p> <p>3. 3 月までに本文・解説(案)を完成予定であり、当初計画をほぼ達成できた。</p>
委員会活動の問題点・課題	本文・解説の査読および校正作業を 2020 年度に実施予定(別途、高流動コンクリート指針改定小委員会を 2 年間設置予定、承認済)